

実体経済の動向

◇12月は生産、出荷とも増加

(生産—前2か月減少のあと増加)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は10月に-0.5%、11月-1.9%と連続して減少のあと、12月(速報)は+2.3%と大幅な増加を示した。しかし、生産の前年同月比水準は+9.8%と41年3月(+6.9%)以来はじめて10%台を下回り、また四半期としてみても、10~12月期は前期比-0.8%と40年4~6月期以来の減少となった。

生産の動きを特殊分類別にみると、12月は各財とも増加したが、とくに一般資本財の著増(+8.1%)が目だっている。これは大型電算機、重電機器(非標準変圧器)、通信機械(搬送装置、自動交換機、電話機等)等、月々のフレの大きい大型機種が前月減少の反動もあって急増したところによる。資本財輸送機械の増加は前月減少したトラックが各車種にわたって増加したためであり、また建設資材(+2.5%)では、鉄骨、橋りょうの大幅増加に加え、板ガラス類もかなりの増

加を示した。生産財も3か月ぶりの増加(+1.3%)となったが、これは需要堅調の石油製品や増設の目だつ合織等の増加に加え、一般機械部品(電気溶接棒、変速機)、化学肥料等が前月減少の反動もあって増加したことによるもので、粗鋼減産体制下の鉄鋼は3か月連続の減少を示した。また、耐久消費財(+0.4%)では石油ストーブ、エアコンディショナー、乗用車(360~1,000cc)等がかなり増加した反面、カラーテレビは-10.5%と引き続き減少した。非耐久消費財(+2.7%)ではメリヤス衣料が増加の大宗である。

(出荷—12月は大幅増加)

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、前2か月かなり減少(10月-1.3%、11月-2.6%)したあと、12月(速報)は+5.5%と著増を示した。フレの大きい船舶を除いても+4.1%(前月-1.0%)と大幅な増加に変わりはなく、また3か月移動平均値の前月比でみると、9月-0.6%、10月-0.4%と減少のあと、11月は+0.4%の微増となった。もっとも、生産同様、12月の前年同月比水準は+9.3%にとどまり、10~12月期としても前期比-0.6%と40年4~6月期以来の減少となった。

特殊分類別にみると、12月は各財とも増加した

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年				45年				45年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10月	11月	12月	10月	11月	12月	
鉱工業指数	199.2	205.5	216.0	221.5	221.0	216.7	—				
前期(月)比	4.8	3.2	5.1	2.6	-0.5	-1.9	2.3				
前年同期(月)比	17.7	19.0	18.4	16.9	11.9	10.2	9.8				
投資財	7.2	7.9	6.5	3.8	-1.0	-1.5	4.8				
資本財	7.2	10.1	6.3	5.7	-1.2	-2.0	6.0				
同(輸送機械を除く)	10.2	12.2	6.1	7.5	-0.8	-8.3	8.1				
輸送機械	1.8	5.7	7.4	-1.0	-2.3	1.8	—				
建設資材	6.8	2.4	6.2	-1.0	0.2	-0.5	2.5				
消費財	3.2	-2.1	6.2	1.5	1.1	-3.3	1.0				
耐久消費財	6.6	-4.9	5.8	2.0	1.6	-3.4	0.4				
非耐久消費財	1.5	1.6	4.8	1.3	1.2	-3.4	2.7				
生産財	4.8	3.1	2.9	1.6	-0.5	-1.2	1.3				

(注) 1. 通産省調べ、45年12月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年				45年				45年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10月	11月	12月	10月	11月	12月	
鉱工業指数	192.5	202.7	205.4	201.9	209.5	204.1	—				
前期(月)比	4.2	5.3	1.3	2.6	-1.3	-2.6	5.5				
前年同期(月)比	18.0	20.2	15.4	14.3	8.8	8.2	9.3				
投資財	5.4	10.3	2.1	3.1	2.2	-4.5	10.8				
資本財	5.5	14.0	0.4	4.5	3.3	-5.7	13.0				
同(輸送機械を除く)	5.9	10.8	2.2	7.4	-8.1	5.1	8.0				
輸送機械	5.1	21.0	-4.2	0.2	23.9	-10.7	—				
建設資材	5.4	0.9	6.5	-0.5	0	-1.3	4.3				
消費財	3.5	1.3	2.2	2.7	-4.6	-0.3	2.9				
耐久消費財	4.8	-2.7	3.3	2.9	-7.1	10.0	1.9				
非耐久消費財	3.0	3.2	0.9	3.3	-2.7	-6.2	5.1				
生産財	3.7	4.2	0.9	1.7	-1.8	-2.4	4.0				

(注) 1. 通産省調べ、45年12月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

が、とくに資本財輸送機械が船舶の引渡し集中を主因として著増したほか、一般資本財も前月(+5.1%)に続いて大幅な増加(+8.0%)を示したのが目だっている。一般資本財の増加は生産同様、大型電算機、通信機械等の出荷集中によるものである。このほか、建設資材は前月減少の鉄骨、橋りょうおよび板ガラス類の反動増を主体にかなりの増加(+4.3%)を示し、生産財も鉄鋼の輸出船積み集中に加え、石油製品や合繊製品、さらに前月著減をみた一般機械部品、化学肥料(尿素、複肥)等の増加もあって、12月は+4.0%の増加となった。消費財では、非耐久消費財が灯油、冬物衣料を中心にかなり増加(+5.1%)した反面、耐久消費財ではボーナス期を迎えたカラーテレビ(+11.4%)や小型乗用車の出荷持直しがあつたものの、前月著増した在来型家電製品(冷蔵庫等)が減少したため、全体としては微増(+1.9%)にとどまった。

(製品在庫——微増)

生産者製品在庫(季節調整済み、前月比)は10月+6.3%、11月+2.4%と大幅増加を示したあと、12月(速報)は+0.6%と微増にとどまった。前年

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	44年		45年		45年		
	12月	3月	6月	9月	10月	11月	12月
鉱工業	186.4	185.5	199.1	211.5	224.8	230.3	—
指数							
前期(月)末比	7.6	-0.5	7.3	6.2	6.3	2.4	0.6
前年同期(月)末比	20.3	16.3	18.3	21.6	26.1	26.5	24.9
製品在庫率	95.0	89.0	94.4	99.6	107.3	112.8	107.6
指数							
投資財	11.0	3.3	13.7	8.3	9.6	3.3	1.3
資本財	14.8	1.7	17.9	8.8	15.2	4.0	2.4
同(輸送機械を除く)	14.1	4.0	17.0	13.9	16.3	3.1	0
輸送機械	18.3	-9.2	20.9	-10.6	8.3	4.7	—
建設資材	6.7	5.3	8.3	8.0	2.3	2.0	0.8
消費財	7.5	-5.7	6.1	3.9	7.4	1.2	0.3
耐久消費財	5.7	-2.2	8.2	4.5	6.7	-3.9	-1.4
非耐久消費財	2.4	-2.9	5.4	1.1	7.2	5.3	1.9
生産財	7.4	1.8	7.0	6.9	3.2	3.8	0.7

- (注) 1. 通産省調べ、45年12月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

同月比でも+24.9%と11月(+26.5%)よりは小幅低下をみたが、水準自体は依然かなり高い。

財別にみると、当月は輸送機械が中型乗用車(1,500~2,000cc)およびトラックを中心に大幅増加となり、非耐久消費財も灯油、紙、プラスチック製品を主体に若干の増加(+1.9%)を示した反面、耐久消費財は前月に続いて小幅減少を示し、その他財はほぼ横ばいにとどまった。このうち耐久消費財の減少は主として石油ストーブおよび小型乗用車(1,000~1,500cc)によるもので、カラーテレビのメーカー在庫は16万台の減少を示した(102万→86万台)ものの、季節調整後では+16.3%と引き続きかなりの増加となった。また生産財では石油化学製品(塩ビ樹脂、ポリエチレン等)、合繊糸、電子部品等が引き続き増加したが、輸出著増の鋼材は各品種にわたってかなり減少した。

以上の動きを映じて、12月の製品在庫率指数(40年=100)は107.6と前月(112.8)比5.2ポイントの大幅低下となった(もっとも、出荷から船舶を除いてみると111.9→108.1と3.8ポイントの低下)。特殊分類別にみても各財とも低下を示したが、水準としては耐久消費財が8月ごろの水準にもどつた以外は、10月を上回る高さにあるものが多い。

(原材料在庫——横ばい)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は11月に+0.4%と微増のあと、12月も横ばいにとどまった。このため、10~12月中では前期末比+1.7%と7~9月期の伸び(+6.6%)を大きく下回り、生産調整の進行に伴う原材料在庫投資の圧縮傾向がうかがわれる。

12月の動きを特殊分類別にみると、国産分は引き続き微増を示したが、7月ごろからかなり急速に増加していた輸入分は、最近における原燃料輸入の伸び悩みを映じて減少に転じた。業種別にみると、船舶で鋼材在庫圧縮の動きがうかがわれるほか、非鉄金属(銅および鉛鉱)、石油製品(輸入原油)等でも減少を示した。一方、鉄鋼、その他工業(塩ビ樹脂、ポリエチレン)では若干の増加となったが、このうち鉄鋼については、製品段階で

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45年			45年		
	6月	9月	12月	10月	11月	12月
在庫指数	159.4	170.0	172.9	172.2	172.9	172.9
前期(月)末比	2.8	6.6	1.7	1.3	0.4	0
国産分	3.7	5.1	1.0	0	0.2	0.8
素原材料	4.8	7.1	2.6	-0.1	1.4	1.2
製品原材料	3.4	5.3	0.2	0.2	-0.3	0.3
輸入分	-1.5	11.3	4.5	5.7	1.2	-2.2
素原材料	-2.0	11.3	5.0	5.9	1.6	-2.4
在庫率指数	78.4	83.8	85.6	84.7	86.1	85.6
国産分	75.7	79.9	81.3	79.7	81.0	81.3
素原材料	84.0	88.8	92.0	88.9	91.9	92.0
製品原材料	76.0	80.7	81.3	80.5	81.3	81.3
輸入分	88.2	94.5	98.3	100.2	101.2	98.3
素原材料	88.1	94.0	97.7	99.7	101.3	97.7

(注) 通産省調べ、45年12月は速報。

の減産に伴い半製品在庫が増加したものとみられる。

(販売業者在庫——増勢着き模様)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は10月微増(+0.1%)のあと、11月は鋼材、民生用電気製品(冷蔵庫、テープレコーダー、テレビ)、乗用車を中心として+1.3%と小幅の増加を示した。乗用車については、新車のいっせい発売に伴う前向き積増し分も含まれているとみられるが、総じて末端需要の伸び悩みを映じた増加ではないかとみられる。一方、需給ひっ迫ぎみの石油製品はかなりの減少(-8.4%)を示し、昨夏来、増加をたどっていた洋紙も減少した。このように、販売業者在庫には、二次問屋やユーザーの購入手控えに

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45年			45年		
	3月	6月	9月	9月	10月	11月
総合指数	160.8	172.3	177.3	177.3	177.5	179.7
前期(月)末比	1.9	7.2	2.9	2.2	0.1	1.3
素原材料	-4.2	-6.2	3.9	-2.5	7.4	-4.2
製品	2.7	8.4	2.3	2.3	-0.4	1.5

(注) 通産省調べ、45年11月は速報。

伴う増加の動きも依然みられるものの、その幅は比較的小さく、全体としては落ち着いた動きを示している。

(設備投資——大勢鈍化傾向続く)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、11月に+5.1%とかなり増加したあと、12月(速報)も+8.0%と大幅増加を示した。機種別にみると、大型電算機、発送配電機器、通信機械等、月々のフレの大きい大型機種の出荷集中によるところが大きい。そのほか化学機械、金属加工機械(機械プレス、鉄鋼用ロール等)も一部前月減少の反動もあってかなりの増加を示した。もっとも、10~12月期としては-0.6%の微減(7~9月期は+7.4%)であり、設備投資の増勢鈍化基調に変わりはないとみられる。

12月の機械受注(船舶を除く)民需、季節調整済み、前月比)は、前2ヵ月大幅減少(10月-19.1%、11月-22.1%)のあと、+6.8%と小幅の増加にとどまった。このため、10~12月期としては前期比-24.1%と著減を示し、また3ヵ月移動平均の前月比では、9月-4.9%、10月-7.8%、11月-13.4%と減勢を強めている。

12月の動きを受注先業種別にみると、非製造業は電力および運輸の大幅増加を中心として3ヵ月ぶりに増加したが、反面、製造業は、設備投資繰

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	45年			45年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
民需	2,522	2,690	2,323	2,631	2,019	2,319
同(船舶を除く)	(-7.9)	(+6.6)	(-13.6)	(-9.8)	(-23.3)	(+14.9)
製造業	2,314	2,430	1,845	2,120	1,652	1,764
同(船舶を除く)	(-2.9)	(+5.0)	(-24.1)	(-19.1)	(-22.1)	(+6.8)
非製造業	1,487	1,370	1,057	1,251	986	935
同(船舶を除く)	(+5.4)	(-7.8)	(-22.8)	(-14.1)	(-21.2)	(-5.1)
製造業	1,036	1,308	1,296	1,369	1,086	1,443
同(船舶を除く)	(-23.8)	(+26.2)	(-0.9)	(-4.5)	(-20.1)	(+32.8)
非製造業	832	1,065	812	886	711	839
同(船舶を除く)	(-15.6)	(+28.1)	(-23.7)	(-22.0)	(-19.7)	(+18.0)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

延べの動きが目だつ鉄鋼(前年比-65.3%)のほか、自動車(同-45.0%)、化学(同-35.1%)、紙・パルプ(同-31.5%)等を中心に引き続き減少した。

この結果、機械受注残高(船舶を除く総額、季節調整済み)も11月には前月比-1.5%と41年3月以来はじめて減少に転じた。内容をみると、金属加工機械、工作機械、建設機械、合成樹脂加工機械等、比較的汎用性の強い機種が減少傾向を示している。

建設工事受注額(民間産業、季節調整済み、前月比)は10月-27.6%、11月+29.6%と一高一低のあと、12月(速報)は-4.8%と小幅減少となった。3ヵ月移動平均の前月比では9月-8.7%、10月-0.1%、11月-4.0%と減勢をたどっており、10~12月中の受注額も前期比-12.5%(7~9月+4.3%)と43年7~9月期以来の減少となった。なお、業種別が判明している11月分についてみると、非製造業は前年同月比+34.3%と高水準ながら、製造業の伸びは大きく低下(同+1.9%)しており、鉄鋼、機械等は前年水準を下回っている。

◇商品市況は総じて弱基調持続

年明け後の商品市況をみると、石油製品、セメント、砂糖が堅調を続けたほかは、非鉄、紙、木材、合繊、合成樹脂、基礎薬品類が引き続き軟調裡に推移し、昨年末から上伸気配をみせていた鉄鋼、綿糸等も1月後半に至り再び小反落ないし弱保合いに転ずるなど、総じて弱基調を継続した。

最近の鉄鋼、綿糸等の市況軟化は、綿糸、そ毛糸については、仕手筋の買い一巡など、これまでの値上がりの主因となっていた定期市場における内部要因のはく落によるものであり、また鉄鋼については、実需の伸びが期待ほどでなく、このところ買付けをふやしていた特約店や一部のユーザーが再び買い控え態度に転じ、メーカーも売り腰をいくぶん弱めるなど、先走り人氣が修正されたことによるとみられる。

この間、需給地合いは全般に引きゆるみの状態

を改めていない。すなわち、家電製品、自動車、織物等の売れ行きが不ぞろいのほか、設備投資が落着き傾向を強めていることから、鉄鋼、非鉄、化学品、繊維、紙等おおかたの品目で需要が低調を続け、また原油輸入価格の上昇から市況堅調の石油製品(C重油、ナフサ)においても、最近では景況の鎮静を映じ需要が伸び悩みぎみとなっている。一方、広範な業種にわたる生産調整の実施にもかかわらず、これが現実にはメーカーの在庫負担の軽減にそれほど寄与するには至っておらず、また、繊維(合繊)、紙等生産能力の増加から供給圧力が強まっているものもかなりみられる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……自主減産の強化を中心としたメーカー・商社の強力な市況対策を背景に、月央ごろまで厚板が統騰、冷延薄板も反発をみせたほか、条鋼類も棒鋼中心に上伸気配を示したが、1月後半に至り、期待された民需の盛り上がりは依然みられないこともあって、市場には先走り警戒観が台頭、ユーザー、特約店筋が模様ながめ気分を強めたため、条鋼類中心に主力品種は反落となった。

繊維……合繊が弱保合い、生糸が値下がりとなったほかは、年末から年初にかけて反発を示すものが多かった。しかし、これらは仕手筋の買い進み(綿糸)、大幅売越し筋の買いもどし(スフ糸、そ毛糸)といった市場の内部要因に引きずられた面が大きく、実際の需給は一部メーカーの設備廃棄計画が進捗している人絹糸を除いては、輪内需の伸び悩みを映じてむしろ緩和傾向を強めつつあるようにかがわれ、月後半にはいり綿糸は保合いに転じた。

非鉄金属……銅、すずが統落したほか、鉛、亜鉛、ニッケル等も弱保合いないし小幅軟化を示すなど、引き続き軟調に推移した。海外相場が低迷を継続し、鉄鋼、自動車、電機関連実需も不振のためユーザー筋では先安観を強めている。

石油製品……重油は需要期とあって荷動き堅調であるが、灯油は多少伸びが鈍っており、ガソリ

ンもやや荷もたれぎみとなっている。こうした一部品種における需給の若干の引きゆるみにもかかわらず、相場は昨年末来の輸入原油値上がりに伴う元売り各社の石油製品価格引上げの動きを映じ、年明け後一段高を示した。

セメント……年明け後の建設工事はまだ本格化するには至っていないものの、需給の堅調を背景にメーカー、販売店が価格引上げ交渉を強腰で進めているため、強含み商状を続けた。

木材……不需要期にはいったことや決済期を控えていることもあって、問屋の仕ぶりは慎重で、商いもふるわず国産材、外材とも安値もみ合いを続けた。

化学品……塩ビ、ポリスチレン等合成樹脂は、生産調整を中心とする市況対策にささえられて市中相場は下げ渋り模様となっているが、合成樹脂可塑剤(ブタノール、オクタノール)や合繊原料(アクリロニトリル)は売れ行き不ざえからじり安傾向をたどっている。

一方、基礎薬品は、実需の伸び悩みや先行きの供給圧力増大見越しの買控えから徐々に弱含みに転ずる気配をみせている。

紙……上質紙をはじめ、コート紙、白板紙、段ボール原紙等主力品種はいずれも一段と軟調の度を強めた。このような市況の軟化は、年明け後の不需要期入りといった事情に加え、とくに供給圧力の増大によるところが大きいのが、このほか景気の鎮静を映じた広告宣伝、包装関連等実需の不振も見のがせない。

砂糖……更年後もしばらくは在庫過剰感から昨年来の低迷相場を脱しきれずにいたが、中旬にはいり、海外原糖相場が世界的な減産予想をはやし6年ぶりの高値に上伸したことを映じて反発を示した。

(卸売物価——落着き続く)

12月の卸売物価は、総平均で前月比-0.2%の続落となった。この結果、45年平均の前年比では+3.6%(44年+2.2%)とかなりの上昇となったが、

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	前年比上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)							
		44年平均	45年平均	45年			45年12月			46年1月	
				10月	11月	12月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総平均	100.0	+ 2.2	+ 3.6	+ 0.1	- 0.3	- 0.2	- 0.1	- 0.1	+ 0.1	- 0.3	保合
食料品	15.7	+ 4.6	+ 2.1	+ 1.5	+ 1.1	+ 1.1	+ 0.2	+ 0.5	+ 0.5	- 1.3	- 0.2
繊維品	10.7	- 1.5	+ 5.8	- 0.1	- 0.3	- 0.7	- 0.3	- 0.6	- 0.1	- 0.4	- 0.1
鉄鋼	9.7	+ 6.1	+ 9.2	- 1.7	- 1.6	- 0.6	- 0.4	+ 0.2	+ 0.5	+ 0.5	+ 0.2
非鉄金属	4.4	+ 11.8	+ 3.1	- 2.4	- 4.0	- 3.1	- 2.0	- 0.5	- 0.8	- 0.3	- 0.7
金属製品	3.8	+ 2.4	+ 4.4	+ 0.4	保合	保合	保合	保合	+ 0.1	保合	+ 0.1
機械器具	22.1	+ 0.1	+ 1.5	- 0.1	- 0.1	- 0.1	保合	- 0.1	保合	保合	保合
石油・石炭・同製品	5.6	- 2.6	+ 2.2	+ 1.3	+ 1.6	+ 0.6	+ 0.3	- 0.1	+ 0.1	+ 0.5	+ 0.4
木材・同製品	6.2	+ 3.3	+ 4.4	+ 0.1	- 1.2	- 1.6	- 0.1	- 0.8	- 0.4	保合	- 0.1
窯業製品	3.0	+ 2.1	+ 4.3	+ 0.5	+ 0.1	+ 0.1	保合	保合	+ 0.2	保合	+ 0.1
化学品	7.6	- 1.2	+ 0.6	- 0.1	保合	- 0.1	- 0.1	保合	- 0.1	+ 0.1	- 0.1
紙・パルプ・同製品	3.4	+ 1.8	+ 8.5	保合	- 0.4	- 0.5	- 0.1	- 0.1	- 0.2	- 0.3	- 0.2
雑品目	7.9	+ 2.4	+ 3.5	保合	- 0.1	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.1	保合	保合
工業製品	82.0	+ 1.9	+ 4.2	保合	- 0.3	- 0.3	- 0.1	- 0.1	保合	- 0.1	保合
うち大企業性	59.6	+ 1.1	+ 3.0	- 0.2	- 0.5	- 0.5					
中小企業性	21.0	+ 3.3	+ 7.1	+ 0.5	保合	+ 0.1					
非工業製品	18.0	+ 3.0	+ 1.4	+ 0.2	保合	+ 0.1	- 0.2	+ 0.3	+ 0.3	- 0.9	- 0.2

(注) 本行調べ。

年間(12月の前年比)では+1.1%と前年の+4.1%を大幅に下回った。

12月の動きを類別にみると、食料品、石油・石炭・同製品、窯業製品が需要期入りから続騰したが、そのほかでは繊維品、非鉄金属をはじめ木材・同製品、紙・パルプ・同製品、機械器具等が続落、鉄鋼も市況対策を背景に中旬以降小反発を示したものの、月中平均では前月を下回った。

産業別では、非工業製品が前月比+0.1%の上昇となったが、工業製品は大企業性製品の値下がりを中心に同-0.3%の続落となった。

年明け後も、1月上旬は前月比-0.3%とかなりの低落のあと中旬は保合いと、引き続き落ち着いた動きを示している(1月中旬の前年比+0.5%)。類別にみると、鉄鋼、石油・石炭・同製品が上昇ないし強含みを続けたが、そのほかは、食料品が年末需要期明けから大幅反落、繊維品、非鉄金属、紙・パルプ・同製品等も軟弱基調を継続した。なお、産業別では、工業製品が引き続き落ち着いた推移をたどっており(上旬の前月比-0.1%、中旬保合い)、また非工業製品も農林水産物の大幅値下がりから反落した(上旬-0.9%、中旬-0.2%)。

(工業製品生産者物価——続落)

工業製品生産者物価は、11月(前月比-0.3%)に続き、12月も前月比-0.4%の続落となった。これは、食料品、石油・石炭製品が続騰したものの、普通鋼鋼材、非鉄金属、合成繊維、紙・パルプ・同製品等が続落、化学品、一般機械、電気機械器具等も値下がりを示したことによる。

この結果、45年間で+1.3%と前年(+3.1%)比小幅上昇にとどまった(年平均では+3.5%、前年+1.5%)。

(1月の消費者物価——続騰)

消費者物価(東京)は、12月に前月比+0.5%と上昇したのに続き、1月(速報)も+1.0%とかなりの上昇を示した(前年同月比+7.9%)。これは、食料費が野菜、生鮮魚介の大幅値上がりから+1.4%と高騰したのが主因であるが、このほか

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年比 上昇率		最近の推移 (前月上昇率)		
		44 年 平 均	45 年 平 均	45年		
				10月	11月	12月
総平均	100.0	+1.5	+3.5	保合	-0.3	-0.4
食料品	12.6	+3.4	+3.6	+1.1	+0.4	+0.2
天然および化学繊維	3.0	-4.9	+9.2	+0.6	-0.8	-2.8
合成繊維	1.4	-4.3	-4.0	-1.9	-1.8	-1.6
繊維物	2.8	+0.2	+2.8	+0.2	-1.0	-0.6
繊維二次製品	3.2	+2.6	+7.3	+0.2	保合	保合
普通鋼鋼材	7.2	+5.8	+7.1	-1.3	-1.4	-0.4
特殊鋼鋼材その他	2.5	+0.8	+7.3	-0.2	-0.3	-0.7
非鉄金属	4.4	+10.8	+2.8	-0.7	-4.4	-1.9
金属製品	4.6	+1.8	+3.4	+0.2	-0.1	-0.2
一般機械	10.4	+1.4	+3.3	保合	+0.2	-0.2
輸送機械	8.3	-1.5	同水準	保合	保合	保合
電気機械器具	9.1	-0.4	+1.5	保合	保合	-0.2
石油・石炭製品	3.7	-2.8	+2.9	+2.5	+0.8	+0.6
木材・同製品	5.0	+3.5	+7.0	-0.8	-0.8	-1.1
窯業製品	3.4	+1.2	+2.5	保合	保合	+0.1
化学品	7.8	-1.4	-0.1	+0.1	+0.1	-0.3
紙・パルプ・同製品	4.5	+1.2	+7.5	-0.3	-0.4	-0.6
雑品	6.1	+2.1	+3.5	-0.2	-0.1	+0.3

(注) 本行調べ。

被服費、住居費、光熱費、雑費もそれぞれ続騰した(季節商品を除く総合では前月比+0.2%)。

なお、12月の全国消費者物価は+0.3%(前月-0.4%)と反騰した。

(12月の輸出入物価——輸出物価微騰の反面、輸入物価は反落)

12月の輸出物価は前月比+0.1%と5か月ぶりに微騰を示した。これは機械器具が船舶の続騰から上昇したのが主因(船舶を除く総平均では、前月比-0.2%と7か月の続落)であるが、このほか化学製品、食料品も上昇した。一方金属・同製品、繊維品、雑品目は引き続き下落した。

輸入物価は11月上昇(前月比+0.8%)のあと、12月は前月比-0.3%と反落した。金属製品が銅関係中心に続落したほか、食料品、繊維品、雑品目が反落したためであるが、鉱物性燃料は引き続き上昇した。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			最近の 前月 同月 比	
		44年 平均	45年 平均	45年		46年 1月		
				11月	12月			
消費者物価	総合 (季節商品を除く)	100.0	+5.6	+7.2	-0.4	+0.5	+1.0	+7.9
	食料	91.4	+5.3	+6.1	+0.8	+0.8	+0.2	+7.3
	住居	40.9	+6.6	+8.1	-1.5	+0.5	+1.4	+9.0
	光熱	10.7	+2.4	+5.2	+0.4	+0.6	+0.6	+5.3
	被服	4.5	同水準	+0.8	+0.9	+0.2	+0.4	+2.2
	雑費	13.0	+6.2	+10.6	+0.8	+0.8	+1.3	+12.7
物価	総合	100.0	+5.2	+7.7	-0.4	+0.3		+8.3
	季節商品を除く	91.4	+5.0	+6.0	+0.7	+0.7		+6.8
	人口の5都市以上	100.0	+5.5	+7.7	-0.4	+0.4		+8.6
	季節商品を除く	91.3	+5.2	+6.0	+0.7	+0.8		+7.2
	輸出入物価		+2.7	+4.8	-0.1	+0.1		+1.7
	輸出入易件		+2.3	+3.4	+0.8	-0.3		+1.3
		+0.4	+1.4	-0.9	+0.4		+0.4	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

2. 46年1月は速報。

◇国際収支は季節事情もあり大幅黒字

12月の国際収支は、輸出の好伸から貿易収支が746百万ドルの大幅黒字となったため、長期資本収支がかなりの赤字となったものの、総合収支でも394百万ドルと既往最高の黒字(従来のは最高は45年9月の393百万ドル)を記録した。

季節調整後の貿易収支は、輸出が前月比+11.5%(前月-6.2%)と著増した反面、輸入が前月大幅減少(同-7.6%)のあと+3.5%の増加にとどまったため、月中461百万ドルの大幅な黒字(前月同324百万ドル)となった。なお、10~12月の輸入は前期比-1.7%と四半期ベースでは40年10~12月以来5年ぶりの減少となった。

一方、長期資本収支は199百万ドルの大幅な流出超(前月同69百万ドル)となった。これは、本邦資本が船舶の引渡し集中に伴う延払信用供与の増加などから、215百万ドルの流出超(前月同112百万ドル)となったうえ、外国資本が対日証券投資の流出超転化、インパクト・ローンの流入減等から小幅の流入超(16百万ドル、前月同43百万ドル)

にとどまったためである。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは買持輸出手形の増加にもかかわらず、為銀が輸入ユーザンス供与の季節的增加に伴う原資の調達などのために外銀借入れを大幅にふやしたため、18百万ドルの悪化となった(前年同月113百万ドルの改善)。一方、外貨準備は月中412百万ドル増加した。

12月の輸出は、前年同月比+22.9%(前月+13.2%)と再び20%台の高い伸びとなった。これは、自動車(通関ベース、前年同月比+64%)、オートバイ(同+144%)、事務用機器(同+66%)等が好調を続けたうえ、鉄鋼(同+23%)が対米輸出規制枠消化のための積み急ぎから、船舶(同+20%)が引渡しの集中などから、ともに伸び率を高めたためである。地域別にみると、米国向け(同+32%)が自動車、鉄鋼、合繊織物を中心に大幅な増加となった

国際収支

(単位・百万ドル)

	45年			45年			44年 12月
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月	
經常収支	386	613	948	255	138	555	428
貿易収支	858	1,119	1,451	398	307	746	582
輸出	4,599	4,951	5,421	1,747	1,540	2,134	1,737
輸入	3,741	3,832	3,970	1,349	1,233	1,388	1,155
貿易外収支	△ 422	△ 458	△ 453	△ 129	△ 162	△ 162	△ 130
移転収支	△ 50	△ 48	△ 50	△ 14	△ 7	△ 29	△ 24
長期資本収支	△ 463	△ 315	△ 381	△ 113	△ 69	△ 199	△ 163
本邦資本	△ 435	△ 392	△ 540	△ 213	△ 112	△ 215	△ 267
外国資本	△ 28	77	159	100	43	16	104
基礎的収支	△ 77	298	567	142	69	356	265
	(28)	(39)	(227)	(70)	(86)	(71)	(46)
短期資本収支	149	244	179	90	11	78	33
誤差脱漏	△ 49	108	△ 29	15	△ 4	△ 40	△ 29
総合収支	23	650	717	247	76	394	269
金融勘定	23	650	717	247	76	394	269
外貨準備増減	△ 99	△ 213	843	222	209	412	20
その他	122	863	△ 126	25	△ 133	△ 18	249
外貨準備高	3,769	3,556	4,399	3,778	3,987	4,399	3,496
為銀対外ポジション	419	1,185	1,060	1,213	1,078	1,060	694

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。

2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。

3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出	輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易	輸出	輸入	信用状	認証	承認
45年1~3月	1,499 (+ 7.6)	1,166 (+ 6.9)	333	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,229 (+ 2.1)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
4~6月	1,548 (+ 3.2)	1,227 (+ 5.2)	321	1,578 (+ 2.6)	1,534 (+ 3.7)	1,271 (+ 3.4)	1,627 (+ 2.7)	1,465 (+ 4.5)
7~9月	1,604 (+ 3.6)	1,317 (+ 7.3)	287	1,628 (+ 3.2)	1,664 (+ 8.5)	1,312 (+ 3.2)	1,700 (+ 4.5)	1,574 (+ 7.5)
10~12月	1,665 (+ 3.8)	1,294 (- 1.7)	371	1,691 (+ 3.8)	1,623 (- 2.4)	1,393 (+ 6.2)	1,800 (+ 5.9)	1,510 (- 4.1)
45年10月	1,674 (+ 2.7)	1,348 (+ 1.5)	326	1,690 (+ 0.6)	1,709 (+ 2.9)	1,377 (+ 3.4)	1,786 (- 0.5)	1,627 (+ 7.7)
11月	1,570 (- 6.2)	1,246 (- 7.6)	324	1,596 (- 5.5)	1,567 (- 8.3)	1,359 (- 1.3)	1,775 (- 0.6)	1,524 (- 6.4)
12月	1,750 (+ 11.5)	1,289 (+ 3.5)	461	1,786 (+ 11.9)	1,595 (+ 1.8)	1,443 (+ 6.1)	1,841 (+ 3.7)	1,378 (- 9.5)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

ほか、アフリカ(同+54%)、中南米(同+38%)向けも高い伸びをみせたが、西欧(同+17%)、東南アジア(同+12%)、共産圏(同-3%)向けはおおむね低調であった。

46年1月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、前月大幅な増加(前月比+6.1%)となったあと前月比-0.2%の微減にとどまり、引き続き高水準を示した(原計数の前年同月比+14.9%)。品目別に前年同月比で見ると、自動車、電気機械、合繊原料、化学薬品等が好調を続けたほか、鉄鋼も中南米向け等の増加からまずまずの伸びを示したが、繊維製品は引き続き低調であった。また地域別には、米国向けが自動車、電気機械を中心に順調な増加を示したほか、欧州向けも増勢を回復、中南米、南アフリカ、カナダ向け等も鉄鋼、自動車を中心に続伸したが、アジア向けは各品目とも低調で前年同月をかなり下回った。

12月の輸入は、前年同月比で+20.2%(前月+15.3%)と高水準ながら、ならしてみれば増勢は8月来の落ち着き傾向を持続している。これは、鉄鉄(通関ベース、前年同月比-57%)のほか非鉄金属鉱石(同+9%)、同地金(同-17%)等の非鉄

金属原材料や羊毛(同-33%)、綿花(同+7%)等の繊維原料の輸入が製品需要の伸び悩みに伴う減産などからスポット物を中心に手控えられているほか、とうもろこし(同+6%)、小麦(同+7%)等の穀物についても需要の不振などから買付けが低調なためである。なお、長期契約物が大部分を占める鉄鉱石(同+28%)、価格上昇の著しい石炭(同+53%)、需要堅調の重油(同+50%)、事務用機器(同+111%)等はかなりの増加を続けた。

12月の輸入承認は、季節調整後の前月比で-9.5%と前月(-6.4%)に引き続いて大幅な減少となった(原計数の前年同月比+13.8%)。品目別に前年同月比で見ると、生産活動の鎮静化を映じて繊維原料、非鉄金属原材料、鉄くず、鉄鉄等の伸び悩みが目だった。

なお、11月の輸入素原材料関連指標(製造業、季節調整済み)をみると、鉄鉱石、石炭等の輸入が増加した反面、消費が総じて伸び悩んだため、在庫は鉱石類(鉄、ニッケル、マンガン等)を中心に増加を続けた。この結果、在庫率指数は101.3(40年=100)と前年3月(100.4)以来の高水準となった。

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	45年			45年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
食料品	160 (- 7)	199 (+ 18)	165 (+ 28)	56 (+ 33)	53 (+ 26)	57 (+ 25)
魚介類	65 (+ 13)	94 (+ 16)	99 (+ 20)	34 (+ 21)	29 (+ 14)	35 (+ 25)
繊維製品	584 (+ 4)	624 (+ 8)	715 (+ 8)	223 (+ 13)	205 (+ 3)	287 (+ 8)
綿織物	46 (- 19)	48 (- 12)	55 (- 9)	17 (- 7)	16 (- 10)	22 (- 9)
合繊織物	147 (+ 23)	167 (+ 23)	193 (+ 16)	61 (+ 20)	54 (+ 10)	78 (+ 19)
化学製品	296 (+ 32)	308 (+ 6)	347 (+ 15)	116 (+ 16)	106 (+ 21)	126 (+ 11)
非金属 鉱物製品	95 (- 4)	96 (- 4)	97 (- 8)	30 (- 11)	29 (- 11)	37 (- 3)
金属製品	940 (+ 36)	1,010 (+ 31)	1,040 (+ 19)	318 (+ 23)	298 (+ 14)	423 (+ 21)
鉄鋼	689 (+ 36)	749 (+ 34)	776 (+ 19)	229 (+ 18)	223 (+ 15)	324 (+ 23)
機械機器 (船舶を除く)	2,113 (+ 25)	2,280 (+ 23)	2,635 (+ 28)	873 (+ 35)	726 (+ 16)	1,036 (+ 32)
テレビ	1,795 (+ 24)	2,002 (+ 25)	2,214 (+ 29)	708 (+ 28)	644 (+ 24)	862 (+ 35)
ラジオ	88 (+ 7)	119 (+ 8)	108 (+ 8)	42 (+ 12)	33 (+ 4)	33 (+ 7)
自動車	169 (+ 24)	197 (+ 21)	194 (+ 12)	70 (+ 16)	56 (+ 10)	68 (+ 9)
船舶	306 (+ 31)	362 (+ 37)	411 (+ 54)	127 (+ 42)	125 (+ 55)	159 (+ 64)
船舶 (船舶を除く)	318 (+ 32)	278 (+ 8)	421 (+ 22)	165 (+ 81)	82 (- 25)	174 (+ 20)
光学機器	123 (+ 11)	134 (+ 15)	136 (+ 10)	46 (+ 14)	40 (+ 7)	50 (+ 10)
その他	481 (+ 11)	536 (+ 14)	513 (+ 15)	163 (+ 12)	147 (+ 11)	202 (+ 21)
合計	4,668 (+ 21)	5,054 (+ 19)	5,511 (+ 21)	1,779 (+ 25)	1,563 (+ 13)	2,168 (+ 23)
船舶 (船舶を除く)	4,350 (+ 20)	4,776 (+ 20)	5,089 (+ 20)	1,614 (+ 21)	1,481 (+ 16)	1,994 (+ 23)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	45年			45年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
食料品	605 (+ 17)	670 (+ 24)	719 (+ 23)	235 (+ 25)	229 (+ 16)	254 (+ 29)
小麦	66 (- 12)	92 (+ 23)	79 (+ 5)	27 (+ 20)	28 (- 7)	24 (+ 7)
とうもろこし	78 (+ 24)	64 (+ 17)	78 (+ 8)	11 (+ 27)	23 (+ 8)	29 (+ 6)
砂糖	63 (+ 52)	76 (+ 59)	86 (+ 55)	28 (+ 62)	25 (+ 11)	33 (+ 112)
原燃料	2,636 (+ 30)	2,704 (+ 24)	2,820 (+ 22)	990 (+ 23)	868 (+ 21)	963 (+ 21)
羊毛	93 (- 5)	90 (- 16)	68 (- 22)	25 (- 15)	21 (- 12)	22 (- 33)
綿花	131 (+ 14)	111 (+ 14)	119 (+ 15)	41 (+ 21)	37 (+ 16)	41 (+ 7)
鉄鉱石	306 (+ 25)	310 (+ 23)	327 (+ 28)	113 (+ 25)	107 (+ 33)	107 (+ 28)
鉄鋼くず	102 (+ 143)	109 (+ 67)	64 (- 8)	21 (- 2)	19 (- 28)	24 (+ 12)
非鉄金属	274 (+ 77)	270 (+ 31)	265 (+ 21)	93 (+ 13)	85 (+ 50)	86 (+ 9)
大豆	87 (+ 26)	88 (+ 27)	104 (+ 34)	35 (+ 53)	33 (+ 29)	36 (+ 25)
木材	385 (+ 16)	419 (+ 24)	430 (+ 25)	156 (+ 25)	130 (+ 25)	143 (+ 26)
石炭	249 (+ 58)	276 (+ 50)	297 (+ 61)	114 (+ 90)	85 (+ 42)	98 (+ 53)
原油	534 (+ 18)	541 (+ 19)	617 (+ 15)	206 (+ 14)	187 (+ 13)	224 (+ 18)
化学製品	255 (+ 32)	250 (+ 28)	256 (+ 22)	92 (+ 29)	84 (+ 27)	80 (+ 11)
機械機器	591 (+ 46)	557 (+ 27)	589 (+ 37)	197 (+ 45)	185 (+ 34)	207 (+ 33)
鉄鋼	74 (+ 44)	77 (+ 53)	43 (- 34)	16 (- 32)	18 (- 11)	10 (- 57)
非鉄金属	237 (+ 15)	237 (- 3)	206 (- 19)	72 (- 14)	67 (- 26)	67 (- 17)
その他	282 (+ 44)	336 (+ 38)	328 (+ 26)	111 (+ 28)	102 (+ 18)	115 (+ 33)
合計	4,680 (+ 30)	4,829 (+ 24)	4,962 (+ 20)	1,714 (+ 23)	1,552 (+ 18)	1,696 (+ 20)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。